



2013 年度 第 14 回通常総会議案書

平成 23 年 11 月 20 日

於 アイビーホール（表参道）

ビジネスプロセス革新協議会

議案一覧

第1号議案 2012年度事業報告書承認の件

第2号議案 2012年度収支決算書承認の件

第3号議案 理事選任の件

第4号議案 本協議会の名称変更承認の件

第5号議案 2013年度事業計画書承認の件

第6号議案 2013年度収支予算書承認の件

- ・ 2012年度 BPIA 事業実績
- ・ 2013年度 BPIA 事業予定

第1号議案

2012年度事業報告書承認の件

2012年度事業報告

I 総括

2012年度事業報告

I 総括

2012年度は7研究会が活動した。環境が激変しているにもかかわらず、意識改革や仕事の仕組み改革が進まない多くの企業に覚醒を求め、活力をとり戻すには今どうすればよいかを議論する流れができていくように見える。研究会の成果をマスメディアに連載することができた（継続予定）。また既存の研究会が新たに元気な研究会を生み出すことができた。研究会に併行して公開セミナー3回、経営サロン1回が開催された。会員交流は、新年会、蓼科・倉重英樹塾、経営サロンの機会に開催された会員交流会に加え、各研究会後のワンコイン交流会が多数設けられた。交流会は会員同士、ときには会員と非会員との情報交換の場として会員から歓迎されている。

目立った退会のなかった前年度に比べ、2012年度末に7社の企業会員の退会があり、会費収入の減少が今後の活動を制約しそうである。経営革新のための研究団体としてのBPIAのユニークな特色を訴求しつつ、引き続き新規会員の勧誘、獲得に会員の協力を切に望みたい。

<生き活きた会社の作り方研究会>は、顧客とのパートナーシップによる価値創造を目指す一方、高質な成果を上げるために社員が生き活きと働ける環境を整えるシグマクシス社の経営プラットフォームを研究対象に選んだ。同社の経営理念、それに基づくワークスタイル、人事制度、プロジェクトワーク、オペレーション可視化など、同社の経営プラットフォームを構成する経営実践を学ぶことに加え、同社の経営プラットフォームの適用を進める三技協、明豊ファシリティワークスの実践事例をも学びながら、新たな時代の組織マネジメントのあり方を研究した。第1回「知識社会の組織経営～M3.0/D3.0/W3.0～」は公開セミナーとして開催された。<Web ビジネス研究会>は、Webサイトを立ち上げただけでは成功するとは限らないWebビジネスの戦略や手法の再構築を目指してスタートした。昨年度はWebビジネス成功事例を3回に渡って紹介したほか、ナビゲータ個人によるBPIA会員向けWebマーケティングセミナーを1回行った。研究会は毎回コンスタントに20～45名が参加。「本音で苦勞とポイントを語る」研究会として、参加者から好評を得ている。<目からウロコの新ビジネスモデル研究会>には、講演からビジネスヒントを参加者に得てもらふこととBPIAの新規会員を獲得する目的がある。登壇する講師の大半は業種は問わないがユニークなビジネスモデルを展開するベンチャー経営者である。Webビジネス研究会は目からウロコ研究会の登壇者が今年度新たに立ち上げた元気な研究会である。このように本研究会は新たなBPIA活動をも生み出すという成果もあげている。<THE 業務革新研究会>は、プロセス改善から始まり、さらにそれを可能にする企業の組織や風土とは何かといったところまでスコープを広げ、「日本企業のイノベーションのために何が必要か」を軸にして研究会活動を行った。今年度は食品製造、精密機器製造、通信などの分野における業務革新の事例企業を取り上げ、現場と管理職の意識改革、ITによる働き方の革新、常識にとらわれない仕事の分解・分析手法等に

について議論を行った。＜働き方革新（ワーク・モデル・イノベーション・リサーチ）研究会＞は、東日本大震災を契機とする、働き方の革新に焦点を当て検討を進めた。その一環として、「震災を経験しての働き方を中心とした企業革新に対する経営者アンケート」を実施し、その結果をもとに、2011年12月には、公開セミナー「震災と働き方“震災半年を経て、あらためて考える企業と働き方のあり方とは”」を開催し、約60名の参加を得た。＜21世紀型情報システムを考える研究会＞は、初期においては「21世紀型情報システムはどうあるべきか」を議論したが、2012年度は「21世紀における情報システム開発手法と何か」に着目して、事例をとりあげた。＜面白工学研究会＞は、個人の視点だけでなく、組織（企業）の「面白さ」にも注目して、実践事例研究を通じた「面白手法」の一般化をめざした。「1度の人生を100%楽しむ方法」、「1日の心身を「見える化」して人生を面白くする方法」、「絆（つながり）のための社内SNS、Facebook、Twitterの活用」など興味深い実践事例が参加者から紹介された。

BPIA 総会併催公開セミナー（2011/11/21）では、「国内外で広がるスマートシティへの取組みとその課題」と題して今野 玲氏（日本アイ・ビー・エム株式会社 公共サービス事業部官公庁サービス部長）による講演につづき、「業態変換を支えるテレワーク実践事例」と題して坂田明氏（明豊ファシリティワークス代表取締役社長兼会長）が講演を行った。続いて各研究会ナビゲータから研究成果に関する報告が行われた。**経営サロン**は、「中島 洋氏と語る『アジアの玄関～IT・情報拠点としての沖縄の視点～』」（2011年12月15日（木）16:00～18:00）をテーマに開催された。**情報発信活動**は、公開セミナー、メルマガ、ホームページ、日経BP社ヒューマンキャピタル・オンラインを通して行われた。BPIAメルマガの購読者は現在2253名。BPIAが共催する小田会員による第5回新緑の高原経営改革セミナー『倉重英樹塾』（12.6.16-17. 於 アートランドホテル蓼科）は、「グローバル視点から、これからの日本を考える！～明日に希望を持つ働き方～」をテーマに、長野県諏訪市にある造り酒屋の老舗「宮坂醸造株式会社」代表取締役社長宮坂直孝氏をゲストに招いて開催された。

2012年9月30日現在の会員数は、法人会員40、公益法人2、学会会員8、個人会員36の合計86であった。

Ⅱ 会務の状況

1. 第13回総会

2011年11月2日 スター研修センター小伝馬町において開催した。議事の内容は次の通り。

- 第1号議案（2011年度事業報告書承認の件）、
- 第2号議案（2011年度収支決算承認の件）、
- 第3号議案（理事選任の件）、
- 第4号議案（2012年度事業計画承認の件）、
- 第5号議案（2012年度収支予算承認の件）、
- 第6号議案（功労者顕彰の件）

2. 理事会

2011年度は、以下の通り2回の理事会を開催した。（ ）内は会場。

2011年10月13日（木）（日本記者クラブ）

2012年5月31日（木）（日本記者クラブ）



日本記者クラブにて（5/31）

3. 理事・監事 (2011年11月2日現在。敬称略。氏名五十音順)

■会長

倉重 英樹 株式会社RHJ インターナショナル・ジャパン 代表取締役会長

■副会長

仙石 通泰 株式会社三技協 代表取締役社長
竹内 弘之 社団法人中部産業連盟 副会長 事務局統括

■常務理事

伊藤 孝 日本ヒューレット・パッカード株式会社
取締役 常務執行役員 管理統括

岩佐 豊 有限会社ワイエスマネジメント 代表取締役社長

岩崎 孝彦 NECソフト株式会社 サービス事業推進部
サービス事業企画エキスパート

内田 士郎 プライスウォーターハウスクーパース株式会社 代表取締役社長

遠藤 隆雄 日本オラクル株式会社 代表執行役社長 最高経営責任者

小笹 芳央 株式会社リンクアンドモチベーション 代表取締役社長

坂田 明 明豊ファシリティワークス株式会社 代表取締役社長 兼 会長

椎木 茂 日本アイ・ビー・エム株式会社
専務執行役員 GBS 事業
コンサルティング&システムインテグレーション (C&S I) 統括

中島 洋 株式会社MM総研 代表取締役所長
全国ソフトウェア協同組合連合会 会長

成田 恒一 株式会社シグマクシス 代表取締役社長

■理事

相磯 秀夫 慶應義塾大学 名誉教授

青木 秋徳 株式会社アイティー 常務取締役

桐山 太一 株式会社アーク情報システム 取締役

後藤 兼一 聖学院大学 政治経済学部教授

速水 治夫 神奈川工科大学情報メディア学科 教授・学科長

渡邊 邦昭 ウィンワークス株式会社 代表取締役社長

■監事

市川 勤 株式会社じもとのneco 代表取締役社長

Ⅲ 企画委員会

昨年度の企画委員会は2回（2012年4月25日、2012年9月21日）開催され、主として以下の点が議論された。

■第1回 2012年4月25日（月）13:30-15:30 / 於 アーク情報システム

〈出席者（敬称略）〉

仙石さん（委員長）、串田さん、池邊さん、桐山さん、岡田さん（働き方改革）、田岡さん（The 業務革新）、山田さん（21世紀情報シ）、岩佐さん・片貝さん（目からウロコ）、小田さん（活き活きた会社）、石田さん・谷口さん（Webシステム）

① BPIAの今後の活動方向（ビジョン）を考える

社会や企業を取り巻く環境・枠組み（プラットフォームあるいはパラダイム）が変わったというが、それはいったい何がどう変わった（変わりつつある）のか。それをBPIAとして定義し、全体の枠組みのなかで、各研究会がそれぞれの活動の意味や位置づけを考え、BPIA全体の進むべき方向（ビジョン）を定めたい。それにより、BPIAの今後の活動を具体的に検討する軸にしたいという意図で、「BPIAの考えるビジネスパラダイムと活動ビジョン」を検討することになった。21世紀情報システム研究会の検討成果をベースに、試論として、ビジョンの提案を同研究会のメンバーである池邊純一氏が行った結果、企画委員会として今後この議論を深めてゆくことになった。理事会の同意を得たうえで、本件をテーマとする研究会を立ち上げ、ビジョンとしての有効性を検討してゆく。

② 会員リクルートの意味と方法に関する事務局からの提案

BPIAは、これまで（特に過去3～4年）イベントドリブンで運営を行ってきた。

その中で分かってきたことは、参加者にとって、研究テーマ/内容を議論すること自体は参加目的の全てではない。「活動を通して親しくなった会員同士がコラボして、新しいビジネスを作りたい」という声を多くの参加者から聞いている。BPIAはアカデミックな集まりではないので、むしろ研究会を通じたアクティブな「人的交流」の場と位置づけたい。そのためには、今後も継続的に外部から様々な知識や経験をもった人々をリクルートし、活動に参加してもらう必要がある。リクルートするとしても（これまでも努力はしてきたが）事務局には力の限界がある。研究会ナビゲータに加えて、たとえば会員有志に「BPIA事務局アドバイザー」などの名刺をもってもらって、リクルートの協力をお願いしたい。

■第2回 2012年9月21日（金）15:30~17:30 / 於アーク情報システム

〈出席者（敬称略）〉

仙石さん、椎木さん、岡田さん（働き方改革）、岩佐さん、片貝さん（目からウロコ）、山田さん（21世紀情報シ）、田岡さん、池邊さん（The 業務革新）、事務局（青山、白井）

① 企画委員会メンバーについて

メンバーは理事と研究会ナビゲーターで構成する。椎木茂さんに副委員長をお願いする。

② 以下の議論が行われた。

- * 研究会に若いメンバーが参加していないのではないか。予算がないため、会員を募集するためのセミナーも開けない。マスコミに取り上げられるような成果も出ていない—などの意見がだされた。
- * これに対して、今年度始まったWEBビジネス研究会には若手ベンチャー経営者を始め、他の研究会に比べて年齢層の若いメンバーを中心に活動が行われており、若い勢いのある会社や大手会員企業の若手社員が多く参加する研究会を目指している。また、13年度に同研究会はソーシャル・スマホ・タブレットなどに関する特別研究会や実践型の企画も検討していることが報告された。
- * 会員を増やすために、BPIAの魅力はどのようにアピールしたらよいかについて、
 - 理論に飽き、実践に飽き、手法に飢えているという社会的閉塞感がある。
 - BPIAの特色は、
 - ・理論、実践、手法を議論する研究会がある。
 - ・ビジネス交流ができる。
 - ・自分のテーマを掲げて研究会を組織することができる——という点か。特に研究会は参加して聴いているだけではなく、その話を聞きたい講師を招くなど自分で企画し運営できるところに魅力があるのではないか。
 - 各研究会はそれぞれに内容のある活動をしているという意味で部分最適は行っているが、これを全体最適と調和させないとBPIAの社会に訴求する強さや魅力は生まれないのではないか。その場合の、個々の研究会活動を貫くミッション・ステートメントは何か考える必要がある。
- * BPIAの活動や人的交流は、個人会員にとっても経験的にビジネス上の価値は大きい。年会費2万円を3万円に上げてよいのではないか。

③ 総会併催セミナープログラムの説明が事務局より行われた。

④ 2012年度の功労賞対象者なし

〈企画委員〉（敬称略）

委員長 仙石通泰 株式会社三技協 代表取締役社長
副委員長 椎木 茂 ココミ コンサルティング株式会社 代表取締役社長
委員 研究会ナビゲータ

IV 研究会活動

2012年度は、下記7研究会が活動を行った。

ネットワーク社会におけるワークスタイル、ライフスタイルを考察する

1. **働き方革新研究会（ワーク・モデル・イノベーション・リサーチ）**

※研究会発足：2008年12月より

BPMを人事制度、組織経営など企業活動の全体から捉える

2. **The 業務改革研究会**

※研究会発足：2006年7月より

チャレンジ精神を忘れた日本人に気付きを与える

3. **目からウロコの新ビジネスモデル研究会**

※研究会発足：2007年11月より

「生きがい、働きがい、やりがい」を高める

4. **面白工学研究会（第4期）**

※研究会発足：2008年1月より

これからの日本企業に求められるモデル、組織や情報共有のあり方を探る

5. **21世紀型情報システムを考える-20世紀からの決別- 研究会**

※研究会発足：2008年1月より

21世紀型の組織マネジメントを追求して経営実践の諸相を探求する

6. **生き活きた会社の作り方研究会**

※研究会発足：2011年12月13日より

戦略に基づいたWebビジネスの再構築を考える

7. **Webビジネス研究会**

※研究会発足：2011年12月22日より

各研究会の活動サマリー

1 働き方改革研究会

本研究会では、月1回のミーティングのほか、働き方革新や経営革新に意欲的な企業を訪問し、経営者等へのインタビューを随時実施した。また、2011年3月の東日本大震災は、企業の事業継続のためにも、働き方の革新による“働きがい”の高揚が必要であるとの認識を高めることとなり、革新に対する実践方法等について検討を進めてきた。その一環として、「震災を経験しての働き方を中心とした企業革新に対する経営者アンケート」を実施し、その結果をもとに、2011年12月には、公開セミナー「**震災と働き方 “震災半年を経て、あらためて考える企業と働き方のあり方とは”**」を開催し、約60名の参加を得た。

【実施概要】

震災と働き方 “震災半年を経て、あらためて考える企業と働き方のあり方とは”

2011年12月8日 中目黒GTプラザホール

第一部 研究活動の概要と問題提起

岡田正志 B&Tコンサルオフィス・オカダ

第二部 パネルディスカッション「震災時の企業と従業員の行動を顧み、

それが今後の企業と働き方をどう変えるか考える」

羽鳥信一 日本ヒューレット・パッカー株式会社

仙石泰一 株式会社三技協

永田一郎 株式会社アルプスビジネスクリエーション

岡田明浩 株式会社竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部

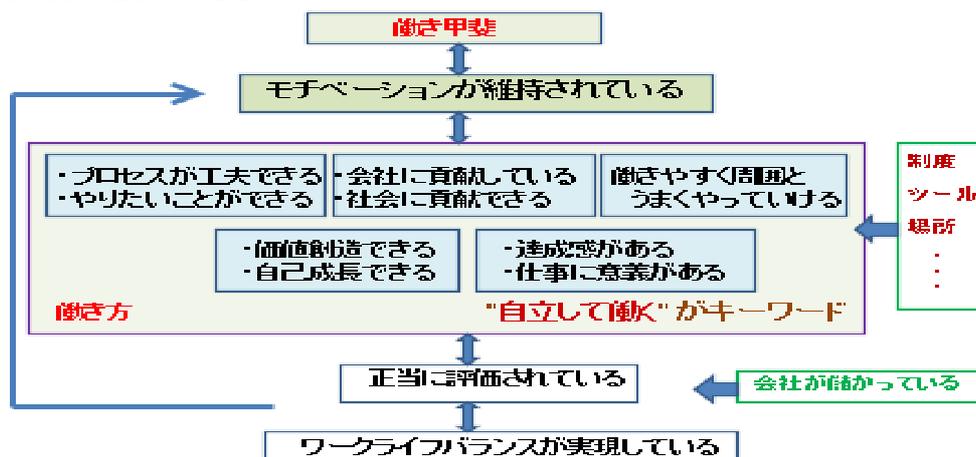
坪本裕之 首都大学東京 都市環境学部 <コーディネータ>

第三部 懇親会

このセミナーでは、企業の危機管理として、“平時からの経営改革や企業風土の改革”と“BCPの再検討”が必要であり、

- ① 経営理念に基づき、社会的責任を含め、できることとできないことを決めておくこと
- ② 働きがいのある企業風土により、社員が自ら判断し行動するように意識改革を図ることが重要で、具体的には、プロセスの簡素化&スピード化、「見える化（可視化）」、リスク対策の平時化（通常業務への組込）、企業風土&社会的責任の再認識などの実践が必要となることをアピールした。研究会では、平行して、“働き甲斐”とは何か注目し、現状現実の問題点を明確にして、働き方のあるべき姿の議論した。そのなかで、“自立して働く”ことがキーワードと考え、その実現についての議論も行った。

働き方と働き甲斐とは



また、魅力があり活力のある企業になるための要因を追及するため、企業の経営者インタビューを開始した。そこでは、企業を、制度（IT活用、組織面）、働き方（モチベーション、人事、可視化、ワークスタイル&ワークプレイス）、リスク（事業リスク、BCP）などから分析し、以下の観点で検討を進めている。

- *不確実性が高く事業環境の厳しい時代においても、その企業が活力を維持し、生き残っていくための潜在的な問題点を洗い出す。
- *企業および働く側の両者にとって、幸福度の高い状態を作り出す可能性と施策について検討する。
- *上記の検討に基づき、理想の企業像と働き方を探る。

さらには、労働意欲のわく環境になっているか、労働機会が開かれているか、活躍の機会や能力向上の機会が与えられているかなどの観点からもヒアリングし、企業の活性化要因を分析している。現時点では“経営者の目の届く企業規模や組織”がキーワードとしてあげられている。本研究会は、次年度も継続して活動する予定だが、研究会の活動内容と位置づけをより明確にするため、名称を変更し、活動の目的と内容を明確化したい。

▼活動履歴（於=アーク情報システムにて）

- 2012年2月23日
- 2012年3月26日
- 2012年4月11日
- 2012年5月16日
- 2012年6月20日
- 2012年7月11日、25日
- 2012年9月10日

2 The業務改革研究会



本研究会は、プロセス改善から始まり、さらにそれを可能にする企業の組織や風土とは何かといったところまで広げ、日本企業のイノベーションのために何が必要かといったことを軸にして研究会活動を行った。今年度は食品製造、精密機器製造、通信などの分野の業務革新の事例企業を取り上げ、現場と管理職の意識改革、ITによる働き方の革新、常識にとらわれない仕事の分解・分析手法等について議論を行った

▼活動履歴 (於アーク情報システムにて)

◎第1回 THE業務改革セミナー 2011年7月27日

「INAX メンテナンスでの知識・ノウハウの集約・共有による業務改革」

日立製作所 Cosminexus : 迅速な情報共有の仕組の実現」

吉村 誠 日立製作所 ソフトウェア事業部 IT 基盤ソフトウェア本部

第2AP 基盤ソフト設計部 担当部長

INAX メンテナンス社では INAX 社の衛生陶器製品のアフターサービスを行っている。こういった業務では多様な製品を扱うため、業務が属人化しその効率を損ねることになっていた。そのため同社では業務の標準化とノウハウの共有を行って業務を変革することが課題であった。この課題解決のために、業務ポータルを日立製作所の Cosuminexus (コズミネクサス) 製品を活用して構築。業務品質の向上と業務改善の実現を短期間で図ることに成功した。INAX メンテナンス社での事例と、その仕組みを作った Cosuminexus の考え方を解説いただいた。

◎第2回 THE業務改革セミナー 2011年10月17日

「現場から全社へ広げる業務改善」

～工場の改善活動を企業文化へと昇華：キューピー株式会社

篠原 真人 キューピー株式会社 執行役員 生産本部 副本部長

工場等の製造現場における業務改善は日本企業の得意とするところと言われている。しかし企業全体の業務改善のためには活動を間接部門にまで広げ、これを定着させなければならない。このためには改善活動が指示に基づく受身の活動ではなく、自発的・自律的な活動、さらには企業の文化となるまでに、現場と経営が一体となった意識改革を進める必要がある。キューピーではマヨネーズへの異物混入問題を契機として業務改善の取り組みを開始。現場主導の自立的な改善運動を定着させた。この取り組みの内容についてご紹介いただいた。

◎第3回 THE業務改革セミナー 2011年11月30日

「スマートデバイスが変革したソフトバンク社のワークスタイル」

中山五輪男 ソフトバンクモバイル株式会社 ビジネス推進統括部 部長 兼
シニアエヴァンジェリスト

ソフトバンク社は常に最先端の端末（スマートデバイス）やシステムを企業内導入させることで、社員の職場環境を変革し続けている。またシステムなどのハード面のみならずソフト面においても変革に挑戦している。トップの孫正義社長を筆頭に Twitter や企業内 SNS などをフルに活用し、有益な情報を瞬時に社内展開させることにより、ビジネスのスピードを加速させ、近年過去最高益を出し続けている。iPad とその上での動画を活用した営業活動によるソフトバンク社の業務革新事例と iPad を活用するお客様の事例をお話いただいた。

◎BPIA 総会・公開講演会

「業態変換を支えるテレワーク実践事例」 2011年11月2日

坂田 明 明豊ファシリティワークス株式会社 代表取締役社長兼会長

明豊ファシリティワークスはコンストラクション・マネジメントの草分けの会社。コンストラクション・マネジメントとは、建設業において発注者の側に立ち、専門家の立場から仕様と価格の適正性をチェックし工事全体をマネジメントする仕事だ。この専門家集団の仕事を支える上でのテレワークを取り入れた働き方、組織や評価のあり方、情報システムについてお話をしていただいた。

◎第4回 THE業務改革セミナー 2012年2月27日

「現場・経営・顧客が一体化になるシステム導入事例

ー18ヵ月間で現場が激変した中小企業A社ー
賀来直俊 ウィシエア株式会社 代表取締役

ビルメンテナンス業界は受注価格の低下と過剰競争で業界平均利益率が3%以下に落込んでいる。この状況下、現場の作業の効率化をして経費を下げるのみでなく、顧客の業務自体に貢献できるかどうかは差別化の大きな要因となっている。ある中小の業者A社は「現場管理」⇔「経営損益」⇔「顧客への作業報告」をリアルタイムに行えるITツールを導入し、18ヵ月間で間接費用の約70%削減に成功した。さらに、従業員士気と顧客への貢献度を劇的に高め、50%以上の売上増と業界平均4倍の利益率を実現している。業務効率を上げつつ、

従業員の士気を高めて顧客へ貢献すること、これを実現した取り組みをご紹介いただいた。

◎第5回 The 業務改革セミナー 2012年3月15日

「実践的な BPM 実現の手法を解説する」

吉原賢治 株式会社 Nix システム研究所 代表取締役

BPMは一部大手企業で実績を出し始めているものの、普及が始まっているというには程遠い状況。これには会社の文化等様々な要因があるが、プロセスの分析・整理の手法に有効な手法がないことが大きな要因である。特にプロセスの粒度の捉え方が標準化できるかどうかは、BPM 成功のキーポイントだ。ビジネスプロセスの図を地図として考えたときに、縮尺の違う地図同士では繋がらないからである。ビジネスプロセス粒度の課題は、古くはコンポーネントベース開発から始まり、SOA、SaaS と解決しないまま引き継がれているが、SOA が、技術としての活用は別として腰砕けになってしまったのも、この課題が解決されていないからに他ならない。また、SaaS 等のクラウドで企業の真のニーズに合ったサービスが提供できるかどうかはこの課題解決にかかっている。吉原賢治氏は日本の能率協会を始めとして40年以上にわたるコンサルティング経験を踏まえ、この課題解決のため、10年以上の歳月をかけて SPAC とよぶビジネスプロセス改革の方法論を開発した。ビジネスプロセスの粒度を標準化し、その機能を正確に捉え整理する手法である。

◎第6回 The 業務改革セミナー 2012年6月14日

「ビジネスモデルを変える大胆な業務改革プロジェクト ～精密機器メーカー事例」

日沖博道 パスファインダーズ株式会社 代表取締役 社長 オフィス・ヒオキ 代表

製造業における業務改革には多次元方程式を解くような難しさがある。ビジネスモデル、事業特質、サプライチェーン（SC）網の複雑さ、経営環境、情報システムのレベル等により取り組むべき経営課題自体も優先度も違い、したがって解決策も一様でない。精密機器メーカー2社（事情により匿名）の業務改革事例を取り上げ、その違いと共通点を対比した。A社は中堅規模で、中国への生産移管が進みつつある中でSCの混乱をきたした例で、その根本原因を突き止め、抜本的な業務・組織の見直しを行った。B社は世界に生産・販売拠点を持つグローバル・メーカーで、販社が抱えがちな過剰在庫に悩まされていた。改革プロジェクトが辿りついた解決策は、単純なSC網の見直しや通常の業務改革というレベルを超え、ビジネスモデルを変える大胆なものであった。

◎第7回 The 業務改革セミナー 2012年7月13日

「圧倒的な生産性向上を実現した、プロセス革新手法の全て」

勝浦秀文 株式会社インクス Iソリューション事業部 パートナー/マネージャー

インクスは設計、試作、金型を自社工場で作るメーカーである同時に、現場で培われた実践的なプロセス革新手法を駆使して、過去100社以上のお客様の生産性向上を実現してきた。いずれのお客様も、最初に「これまで数多くの改革プロジェクトを立ち上げてきたが、

活動が狙った効果に繋がらない」という悩みを吐露する。それは目標達成の為に解決すべき真の課題が明確でない中で、システム導入や方策を実施してきたことが要因となっているケースが多いように見える。改革は現場の実態を正確に把握することから始まる。しかし、単に仕事の流れを可視化するだけでは、本当に解決すべき課題は見えてこない。真の課題を導き出し、改革を成功に導く為に、本当に必要なことは何か。インクスが数多くの業務改革に成功をもたらした、実践的なプロセス改革のノウハウを、紹介いただいた。

◎The 業務改革セミナー 中間まとめの会合 2012年9月28日

3. 目からウロコの新ビジネスモデル研究会



ビジネス創生の一助となることを目的に、講師を招いた講演とディスカッション、ワンコインパーティーの形式の研究会。これまでのシリーズは57回。昨年も月1回の頻度で全12回休まず実施した。

本研究会は二つの目的がある。

1. BPIAの存在を世に知らしめ会員を獲得する。
2. 会員各社が、ゲストの講演にヒントを得て、本業のビジネスに生かす。

本年度の講師で、いわゆる大企業の方は第47回の日立製作所の花松氏のみで、ほとんどはベンチャー企業経営者であった。来年度も、ナビゲータ岩佐・片貝がそれぞれ出会った、ユニークなビジネスモデルを展開している方を講師に招き、お話を伺うスタイルで継続したい。ジャンルやITを活用しているかどうかなどは一切問わない。問題点として、セミナーに出席する会員が固定される傾向にあるので、企業会員はより多くの社員をご派遣いただきたい。

▼活動履歴（全12回。最終週の火曜日16:00から、アーク情報システム）

◎第46回 2011年10月25日（火）16:00-19:00（研究会+交流会）

「省エネ、創エネ、蓄エネで快適で持続可能な社会は実現できる！」

堀内道夫 株式会社 光と風の研究所 代表取締役

◎第47回 2011年11月29日（火）16:00-19:00（研究会+交流会）

「ぶれない指標「人口動態」から日本の進路を考える」

花松甲貴 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 人事総務本部主任
ドロッカー学会企画委員

◎第48回 2011年12月20日（火）16:00-19:00（研究会+交流会）

「電子書籍のつくり方・売り方」

小島孝治 株式会社エア 代表取締役社長

- ◎第49回 2012年1月31日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「東京を向かずに自立した大船渡市ー岩手ー東北を創る」
佐藤 寧 大船渡市議会議員
- ◎第50回 2012年2月28日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「地図を活用したエリアマーケティング
ーピンポイントマーケティングへの対応ー」
平下治 株式会社 JPS 代表取締役
- ◎第51回 2012年3月27日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「なぜ今‘地域’が注目されるのか ～都市のチカラ、地域のチカラ～」
齋藤雅子 都市農村交流コーディネーター
- ◎第52回 2012年4月24日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「マニュアルから企業理念が見える
～グローバル企業になるためのマニュアルのあり方～」
勝畑 良 株式会社ディー・オー・エム・フロンティア 代表取締役
- ◎第53回 2012年5月29日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「SEから始めたビジネスキャリア ～今すごいビジネスモデル展開しています。」
菊地範芳 株式会社こんにちほ。代表取締役
- ◎第54回 2012年6月26日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「システム開発における日米プロジェクトマネジメント比較」
永谷 裕子 株式会社アスカプランニング 代表取締役社長
- ◎第55回 2012年7月31日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「サムライ魂を世界へ ～田川清美さんの26年間の軌跡とビジネス展開」
田川清美 一般社団法人 samurai.jp 代表
- ◎第56回 2012年8月28日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「ソーシャルネットワークで解決するアパレル業界の課題」
渡辺祐樹 カラフル・ボード株式会社 代表取締役 CEO
- ◎第57回 2012年9月25日(火) 16:00-19:00(研究会+交流会)
「ベンチャー経営と電子書籍の現状と今後の方向性まで」
小林徳滋 アンテナハウス株式会社 代表取締役

4 面白工学研究会<第4期>



「面白工学」とは、人生も仕事も面白くするための知恵と手法を開発する工学である。生きがいのある人生、働きがいのある会社、やりがいのある仕事（趣味）を目指している。今期も、個人の視点だけでなく、組織（企業）の「面白さ」に注目して、個人と組織、さらに社会の発展に寄与する研究会を心がけた。

今年1月19日（木）から6月7日（木）まで毎月1回、17:00-19:00コクヨ霞が関の会議室を借りて研究会を開催した。これに先立ち11月11日（金）ナビゲータのかせ沢孝之氏による面白仏教哲学を特別編として開催した。また、4月例会では、斎藤智文氏（株組織と働きがい研究所 代表取締役）をゲスト講師として招いた。

▼活動履歴（全6回+番外編1回、コクヨ（霞ヶ関））

◎特別編：2011年11月11日（金） 17:00-19:00、19:30-面白交流会
ナビゲータ かせ沢孝之 面白仏教哲学1

☆記録↓

<http://fujio-dayori.seesaa.net/article/234891061.html>

◎ 第1回：2012年1月19日（木）17:00-19:00、19:30-面白交流会
オリエンテーション～人生も仕事も面白くする「面白主義」の実践。

～そもそも「面白い」とは何か？「面白主義」とは何か？なぜ今、「面白い」が必要か？「面白要素」や「面白サイクル」などを解説しながら、この「研究会」の主旨や運営方針、目標、進め方を話し合う。

◎ 第2回：2012年2月2日（木）17:00-19:00、19:30-面白交流会

「面白主義」の実践方法1 演習：「面白まじめリーダー」モデルの研究

～組織（会社、職場）を面白くするには、まず自分自身が「面白主義」を実践する必要がある。現状の自分の「面白まじめ」度を自己分析して、強みをさらに伸ばす。「面白主義」を実践する「面白まじめリーダー」モデルを提示して、これからの組織とリーダーのあり方を探る。

◎ 第3回：2012年3月1日（木）17:00-19:00、19:30-面白交流会

「面白主義」の実践方法2演習：やる気と「面白要素」

～やる気（モチベーション）の本質と「面白い」との関連を探る。「やる気圧（気温）」テストを活用して、仕事の「やりがい」と会社の「働きがい」を考察する。個人と組織を面白くしてやる気を高める「面白要素」や「面白交流」の実践方策を探求する。

◎第4回：2012年4月5日（木）17:00-19:00、19:30-面白交流会

組織と仕事を面白くするマネジメントとリーダーシップの事例研究：

ゲスト：斎藤智文さん 株式会社組織と働きがい研究所 代表取締役

◎特別編；2012年4月25日（水）17:00-19:00、19:30-面白交流会

ナビゲータ・かせ沢さん面白仏教哲学2

☆記録

<http://fujio-dayori.seesaa.net/article/267030723.html>

◎第5回：2012年5月10日（木）17:00-19:00、19:30-面白交流会

メンバーによる実践事例研究

～これまでの気づきと学び、実践、体験から得た知見を活かして、個人と組織を面白くする実践事例を相互に紹介し、より効果的な実践方法を探究する。

◎第6回：2012年6月7日（木）17:00-19:00、19:30-面白交流会

相互発表、総括まとめ

～個人と組織を面白くしてやる気を高める実践事例を相互発表して、効果（成果）を確認しあう。さらに残された課題についても話し合う。

▼ 研究成果

今期は面白くする方法（面白手法）の開発と実践事例研究、さらには「面白手法」の一般化につなげることに重きを置いた。たとえば、実践事例テーマは以下の通りである。

- ① コミュニケーションで人間関係をよくする方法、仏教の智慧を活かす方法（タッキー）
- ② 「1度の人生を100%楽しむ方法」（経験－面白手法－解説の一覧表）（つちのこ）
- ③ 1日の心身を「見える化」して人生を面白くする =1 DAY 面白メモ = （ゴミ）
- ④ IT推進の面白支援方法、日々の面白・感動体験を「週報」として記録（KAZUKUN）
- ⑤ 「真面目にあらず」という生き方、人に気づきを与え成長をさせる方法（カクサン）
- ⑥ 絆（つながり）のための社内SNS、Facebook、Twitterの活用法（マジカルマント）
- ⑦ 研究会の講義をもっと面白くする方法（3点要約法など）（本質くん）
- ⑧ 面白要素、面白手法の体系図の開発、職場オフィス環境を面白くする方法（実験君）
- ⑨ 気持ちと意味を同時に伝える方法、趣味は仕事に通ず（好きを探そう！）（こっせいー）
- ⑩ 職場活性化のための「職場リアリティ」活動の方法（雪の申し子）

なお、面白手法の分類、体系化は進んだが、まだ完成していない。

研究員

瀧野富士男 ▶ 東洋学園大学現代経営学部客員教授、
 株式会社東レ経営研究所特別研究員 <ナビゲータ>
 かせ沢孝之 株式会社データマネジメント 執行役員
 営業本部 ビジネスサービス営業部 部長 <サブ・ナビゲータ>
 石田 麻琴 株式会社ECマーケティング人財育成
 片貝 孝夫 片貝システム研究所
 谷口 擴朗 京セラコミュニケーションシステム株式会社
 林 賢 コクヨファニチャー株式会社
 三原 和男 株式会社サリック
 古瀬村佳亮 富士ソフト株式会社
 村橋 健司 社団法人日本能率協会
 佐藤 正俊 株式会社ホロンシステム
 野間 能子 株式会社ノーマ・プランニング
 犬飼 隆司 株式会社第一コンピュータリソース
 藤井 利侑 西松建設株式会社
 渡邊 信光 Initiative&Solutions、Inc
 葛谷 正明 株式会社イトーキ
 井ノ上美和 株式会社タイムコンサルティング
 村橋 健司 社団法人日本能率協会
 横山 弘樹 イー・アクセス株式会社
 池邊 純一 サステナブル・イノベーションズ(株) 代表取締役社長

これからの日本企業に求められるモデル、組織や情報共有のあり方を探る

5 21世紀型情報システムを考える-20世紀からの決別- 研究会

21世紀システム研究会は、当初の議論を経て昨年度（2011年度）から新たなフェーズに入っている。具体的には、事業や経営に貢献する効果的なシステムを構築するための方法論や手法、ツールを、利用者サイドの視点で学び、議論するフェーズである。実際には、要求を生み出す、可視化するアプローチとして匠 Businessplace の萩本順三氏の要求開発に関わるレクチャや議論、プロトタイプ型システム開発／実行環境である「Sapeins」に関わるレクチャと議論などを実施してきた。しかし様々な事情があるとはいえ、例えば研究会の頻度が3、4ヶ月に1回程度と低調で、参加メンバーが固定化、減少している面も否めない。このことは大きな反省材料である。

▼ 活動実績（全4回、於 アーク情報システム）

◎第20回 2011年11月25日（金）15:00-17:00 研究会、17:00-18:00 交流会

「要件開発実践への道」

荒井 康 株式会社ニッポンダイナミックシステムズ 事業推進 統括

三輪 陽子 株式会社ニッポンダイナミックシステムズ 要求開発コンサルタント

◎第21回 2012年3月14日(水) 16:00-18:00 研究会
「中堅中小企業(SMB)の価値あるIT化を目指して」
平山 武司 株式会社ニッポンダイナミックシステムズ 代表取締役社長

◎第22回 2012年5月30日(水) 16:00-18:00 研究会
「サピエンスクラウドへの期待と課題」
本間峰一 みずほ総合研究所コンサルティング部 上席主任コンサルタント

◎第23回 2012年10月5日(金) 15:00~17:00
「プログラミング不要、Sapiensによる具体的な開発方法」
原田奈美 こまくさネットサービス株式会社 取締役

21世紀型の組織マネジメントを追求して経営実践の諸相を探求する

6 生き活きた会社の作り方研究会



2011年12月~2012年9月まで9回にわたって研究会を開催した。シグママックス

でのプラットフォームに関する説明：6回(初回は倉重会長による講演)および、次の2社の実践事例(三技協のサイバーマニュアルの活用、明豊ファシリティワークスの生き活きた会社のオフィス)を発表していただいた。最後に、まとめのためのミーティングを実施した。

▼活動履歴：(全9回、シグママックス、アーク情報システムにて)

◎第1回 2011年12月13日(火) 15:00-17:00 / 神谷町 シグママックス社
経営者向け・オープンセミナー
「知識社会の組織経営 ~M3.0/D3.0/W3.0~」
倉重英樹 BPIA 会長

◎第2回 2012年1月17日(火) 15:00-17:00
「ワークスタイルとプロジェクトワーク」
武藤壮平 株式会社シグママックス CEO 補佐

◎第3回 2012年2月21日(火) 15:00-17:00

「デジタル・モバイルワークプレイス」

戸田輝信 株式会社シグマクシス パートナー

◎第4回 2012年3月21日(水) 15:00-17:00

「プロフェッショナル人事制度」

林 展宏 株式会社シグマクシス パートナー

◎第5回 2012年4月17日(火) 15:00-17:00

「経営の可視化」

郡 のぶ 株式会社シグマクシス ディレクター

◎第6回 2012年5月22日(火) 15:00-17:00

「プロフェッショナルを支える「学習する組織」」

内山その 株式会社シグマクシス ディレクター

◎第7回 2012年6月19日(火) 15:00-17:00

生き活きた会社一実践事例1. 三技協

◎第8回 2012年7月17日(火) 15:00-17:00

生き活きた会社一実践事例2. 明豊ファシリティーズ

◎第9回 2012年9月11日(火) 15:00-17:00

研究会中間まとめ

★以上の記録は、日経BP ヒューマンキャピタル Online に連載されている。

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/hco/20120810/319449/>

▼総括

この研究会の意図するところは、「倉重経営の真髄は、生き活きた会社を作るには、個々の社員を快適に、かつこよく、しかし競争の仕掛けを働かせながら、将に「生き活きた」働けるように、人事制度、情報システム、オフィスづくり、働く仕組み(プロジェクトチーム)・・・等々の仕組みや環境を、従来の考え方に捕らわれないで実践することである。その具体的事例のシグマクシスの経営プラットフォームについてを紹介しながら、他の日本企業にも変革の気運を呼び起こしていく」かである。また倉重さんからは、「シグマクシスを解剖してもらい、率直な感想を聞きたい」という要望もあった。この研究会のまとめは日経BPヒューマンキャピタルのWEBサイトにも各回のサマリーを掲載し、世間への発信をした。これにより、ターゲット経営層への関心呼び起こしも狙った。以上の今年の活動を通じ、意図したように会の運営が進んだか、参加者の声も含めて総括したい。

(良かったこと)

- ・ 各回のシグマクシス担当者からの経営プラットフォームについての説明は具体的で分かりやすかった。
- ・ 日経BPのサマリーはよくまとまっていて、教科書としては十分に使える。
- ・ 経営者のガバナビリティ（統括）がしっかりしていて、プログラム、ツールが有機的につながっている。
- ・ トップの顔が重要で、わかりやすいメッセージが発信されている。
- ・ 会社の新しい価値を作りだしている。
- ・ 会社、働く人、市場(社会)がすべて上り基調なら機能する。明豊の話を知ると、市場価値に合えば、下り基調でも上りになりうる可能性がある。
- ・ 社員の顔が見える仕組みづくりが印象的。これからはチームワークが重要になる。
- ・ 三技協のサイバーマニュアルでもそうだが、経営者の確固たる姿勢が改革を成功させる鍵であり、経営者の顔が見えることが重要。多くの企業はリーダーシップが弱い。

(気になること)

- ・ 研究会員には企業の経営層を期待したが、大半、BPIA 会員で、経営第一線をリタイアした人も多く、意図した層は少なかった。
- ・ 日経 BP を通じての発信もまだ経営層の関心を引くにはまだ至っていない。
- ・ シグマクシスの前の PWC やテレコムで作ってあげていったと思われるが、この試行錯誤の苦労話が聞きたかった。これから考える企業にとっては有用ではないか。
- ・ 中堅規模の企業は経営者がその気になれば、導入可能と思われるが、大企業には難しいのではないか。
- ・ すべてではなく弱いプラットフォームから順序づけて導入することは可能か？
- ・ 「どう変わるべきか」わからないトップが多いのも実情、このような経営者にどうアプローチするか？ 金の問題もある。
- ・ 実践事例、導入事例の話がもっと聞きたかった。
- ・ エリートが考える会社形態ではないか。“エリートによるエリートのための会社”
- ・ 業績不調なときでも、“生き生き”できるのか？
- ・ 会社が生き生きしても、“社会が生き生き”するまでには至っていない。
- ・ 日経 BP のまとめはテキストとしては使えるが、経営層に読んでもらえるには編集し直す必要がある。

戦略に基づいたWebビジネスの再構築を考える

7 Webビジネス研究会



Webビジネスの再構築を掲げ、2011年11月よりWebビジネス研究会をスタートさせた。初回の「Webを取り巻く環境と、マーケティングツール」の紹介からはじまり、Webビジネス事例を3回で紹介（サービス1、ネットショップ2）、またナビゲータ石田によるBPIA会員向けWebマーケティングセミナーを1回行った。研究会1回あたり20～45名に安定的にご参加いただくことができ、また、他のWeb関連セミナーにはない「本音で苦労とポイントを語る」研究会として、参加者から好評を得た。まず第一期の目標であった、「BPIAにWebの研究会ができた」という旗振りを大きく実現できた。

▼開催履歴（全5回、アーク情報システム）

◎第1回 2011年11月22日（火）16:00- 19:00（研究会+交流会）

「グローバルWebとエスノグラフィー」

ゲスト： 田中猪夫 FatWire株式会社 代表取締役

上平泰輔 株式会社大伸社 常務取締役

◎第2回 2012年1月24日（火）16:00- 19:00（研究会+交流会）

「いま初めて語られる・・・結婚式場選びのNo.1 口コミサイト「みんなのウエディング」運営ノウハウ大公開」

ゲスト： 中村義之 株式会社みんなのウエディング 取締役マーケティング部長

◎第3回 2012年3月13日（火）16:00- 19:00（研究会+交流会）

「10年間のノウハウを“初”公開 ECにおける、『実用』データマネジメント。」

ゲスト： 大場雅人 株式会社バージンダイヤモンド コマース事業部 部長

◎第4回 2012年5月15日（火）16:00- 19:00（研究会+交流会）

「Webの活用でビジネスモデルを変える！ IT企業のための、Webマーケティング本質論。」

講師： 石田麻琴 株式会社ECマーケティング人財育成 代表取締役

ゲスト： 江尻高広 株式会社船井総合研究所 経営コンサルタント

◎第5回 2012年7月10日(火) 16:00- 19:00 (研究会+交流会)

「榎本代表が語りつくす・・・日本初の『風景専門店(R)』あゆわらのアイデアと事業化、
誕生秘話と「風景ビジネス奮闘記」

ゲスト： 榎本高行 あゆわら株式会社 代表取締役

↓以上、研究会活動およびレポートの一覧

研究会活動⇒ http://b-p-i-a.com/wp/?page_id=117

研究会レポート⇒ http://b-p-i-a.com/wp/?page_id=291

V セミナー活動

2012年度は、以下の通り3回開催した。

◆第13回 BPIA 通常総会併催講演会

(2011年11月2日 / TKP 小伝馬町ビジネスセンター / 参加者 90名)

- ・「国内外で広がるスマートシティへの取組みとその課題」

今野 玲 日本アイ・ビー・エム株式会社 (BPIA 会員)
公共サービス事業部 官公庁サービス 部長

- ・「業態変換を支えるテレワーク実践事例」

坂田 明 明豊ファシリティワークス株式会社 (BPIA 会員) 代表取締役社長兼会長

- ・ BPIA 活動紹介

◆「生き生きした会社の作り方」研究会 第1回 2011年12月13日(火) 15:00-17:00 / 神

谷町 シグマクシス社)

経営者向け・オープンセミナー

「知識社会の組織経営 ～M3.0/D3.0/W3.0～」

倉重英樹 BPIA 会長

◆震災と働き方 “震災半年を経て、あらためて考える企業と働き方のあり方とは”

(2011年12月8日/中目黒GTプラザホール/ 参加者 60名)

- ・研究活動の概要と問題提起

岡田正志 B&Tコンサルオフィス・オカダ

- ・パネルディスカッション「震災時の企業と従業員の行動を顧み、それが今後の企業と働き方をどう変えるか考える」

羽鳥信一 日本ヒューレット・パカード株式会社

仙石泰一 株式会社三技協

永田一郎 株式会社アルプスビジネスクリエーション

岡田明浩 株式会社竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部

坪本裕之 首都大学東京 都市環境学部 <コーディネータ>

VI 経営サロン

2011年度は、以下の通り1回の経営サロンを開催した。

◆第41回 中島 洋氏と語る経営サロン (2011年12月15日(木) / 日本オラクル(青山))

「アジアの玄関～IT・情報拠点としての沖縄の視点～」

中島 洋 BPIA 常務理事/美ら島沖縄大使 / 株式会社MM総研 代表取締役所長
全国ソフトウェア協同組合連合会 会長

沖縄は数年前まで、首都圏や関西圏から最も遠い日本の辺地。人件費の安い地域としてIT産業を振興してきた。しかし、アジアの急成長とともに、アジアの中心に最も近い拠点として視点が変わりつつある。さらに大震災以降、情報システムのバックアップ機能も注目され、BCP基地の役割も担いつつある。企業進出が加速する沖縄の魅力は何か。沖縄振興審議会の専門委員で、美ら島沖縄大使として、IT産業振興を引っ張ってきた経験をお話しいただいた。

VII 会員交流活動

2012年度は、以下の通り2回の交流会を開催した。

◆ 総会併催交流会

2011年11月2日

TKP 小伝馬町ビジネスセンター

◆ 新年賀詞交歓会

2012年1月16日

中目黒GTプラザホール

参加者 65名

VII 会員・外部との協力活動

◆ 小田毘古会員による企画・

倉重英樹塾「経営改革セミナー」(第5回)の実施

日時: 2012年6月16日(土)-17日(日) in アートランドホテル蓼科

主催: ワーク・プレイス・リサーチセンター(WRC)

ビジネスプロセス革新協議会(BPIA)

後援: アートランドホテル蓼科

テーマ: グローバル視点から、これからの日本を考える!

~明日に希望を持つ働き方~

講師: 倉重英樹

宮坂直孝 宮坂醸造株式会社 代表取締役社長

昨年の震災以降、日本を取り巻く環境は大きく変わりました。先の見えない混沌とした今、狭い範囲の理論では生きていけません。広くグローバル視点で経営を考えることが求められます。塾長・倉重さんは、「多様な人材による多様な考え方が会社を変える」とダイバーシティ3.0を掲げ、経営に取り組んでおられます。今回ゲストにお迎えする宮坂醸造社長・宮坂

直孝さんは、信州諏訪の銘酒・真澄を“SAKE”として、世界に広めています。創業350年の企業が世界に羽ばたくまでのグローバル戦略とその実践をお聞きしながら、“明日に希望を持つ経営と働き方”の議論を深めたいと考えます。



IX メディア連携・広報活動

昨年度に引き続き、BPIAの社会的認知度を高めることを目的として、メディアとの連携を積極的に行った。

◆IT Media エグゼクティブ(会員制コミュニティサイト)との研究会の共催
目からウロコの新ビジネスモデル研究会・共催

◆日経BP ヒューマンキャピタルOnlineへのコラム連載
面白工学研究会ナビゲータ・淵野氏による
「元気の出るリーダーシップ～知恵創造型リーダーシップ論～」
2012年5月22日より、第3弾コラム連載中！
<http://www.nikkeibp.co.jp/article/hco/20120521/309637/>

◆日経BP ヒューマンキャピタルOnline
倉重英樹監修による「生き生きした会社の作り方研究会」 レポート
2012年3月16日より連載中！
<http://www.nikkeibp.co.jp/article/hco/20120315/302538/>

生き生きした会社の作り方



倉重 英樹（くらしげ・ひでき）

株式会社シグマクシス代表取締役会長

早稲田大学政治経済学部卒業。日本アイ・ビー・エム取締役副社長を経て、1993年にプライスウォーターハウス



.....

元気の出るリーダーシップ～知恵創造型リーダーシップ論～



淵野 康一（ふちの・こういち）

東洋学園大学客員教授、東レ経営研究所特別研究員。東レでは、主として人事・教育・経営企画畑を歩み、営業・



◆BPIAメールマガジン：月2回発行

編集長： 中島 洋氏 株式会社MM総研 取締役所長、日経BP編集委員
購読登録者数（2012.9.30時点）：2,247名（※昨年2011.9.30時点は2,008名）

◆BPIAホームページ

◎「会員紹介」

「ビジネスモデルから提案できる 本当の意味でお客さまの役に立つSIerを目指す」

株式会社ヤマティーン 代表取締役社長 山下正廣氏

聞き手：片貝孝夫 片貝システム研究所（BPIA会員）

☆記事一覧 <http://www.b-p-i-a.com/company/index.html>

◎「会員コラム」

「組織の構成要素は人ではない！」 渡邊 信光（2012/4/25）

☆記事一覧 <http://www.b-p-i-a.com/column/index.html>

◎「研究会レポート」

☆記事一覧 http://b-p-i-a.com/wp/?page_id=291

第2号議案

2012 度収支決算書承認の件

貸借対照表

第12期(2012年度)

2012年9月30日現在

ビジネスプロセス革新協議会		単位：円	
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	4,041,777	【流動負債】	4,146,500
現金預金	4,041,777	未払金	346,500
未収入金	0	前受金	3,800,000
		負債合計	4,146,500
		正味財産の部	
		正味財産	-104,723
		(うち当期正味財産増加額)	45,175
資産合計	4,041,777	負債及び正味財産合計	4,041,777

財産目録

2012年9月30日現在

ビジネスプロセス革新協議会

<資産>		
現金預金：	三菱東京UFJ銀行（中目黒支店）	4,041,777 円
未収入金：		0
	計	4,041,777 円
資産合計		4,041,777 円
<負債>		
未払金：	メルマガ編集他	346,500 円
		円
	計	346,500 円
前受金：	会費収入	
	・A会員 30万円 (4)	1,200,000 円
	・B会員 18万円 (8)	1,440,000 円
	・公益法人 9万円 (1)	90,000 円
	・有期会員 5万円 (15)	750,000 円
	・学会会員 12千円 (0)	0 円
	・個人会員 20千円 (16)	320,000 円
	計	3,800,000 円
負債合計		4,146,500 円
差引正味財産		-104,723 円

2012年度収支計算書 (2011年10月1日~2012年9月30日)

◆収入の部	項目	予算額 (ア)	年間収支合計 (イ)	予算残額 (ア-イ)
会費収入	会費収入	7,246,000	6,898,580	347,420
	入会金	90,000	0	90,000
	その他収入 (総親会費収入他)	300,000	386,682	-86,682
受取利息・雑収入		500	314	186
(A) 当期収入合計		7,636,500	7,285,576	350,924
(B) 前期繰越収支差額		-149,898	-149,898	0
(C) 収入合計 (A+B)		7,486,602	7,135,678	350,924
◆支出の部		予算額 (ア)	年間収支合計 (イ)	予算残額 (ア-イ)
1. 事業費	(1) 研究会・企画委員会	600,000	505,863	94,137
	(2) 研究会発表会	50,000	0	50,000
	(3) セミナー開催	50,000	47,235	2,765
	(4) 経営サロン	50,000	7,531	42,469
	(5) 研究報告書制作費	20,000	0	20,000
	(6) 共同宣伝・広報の実施	750,000	632,550	117,450
	(7) 会員交流の実施	150,000	182,731	-32,731
	(8) 関連業界団体との交流	10,000	0	10,000
	(9) 雑費	10,000	6,195	3,805
	(10) 新規事業予備費	52,602	0	52,602
事業費合計		1,742,602	1,382,105	360,497
2. 管理費	(1) 印刷費	25,000	25,704	-704
	(2) 旅費交通費	25,000	59,350	-34,350
	(3) 通信費	10,000	7,200	2,800
	(4) 支払手数料	25,000	25,200	-200
	(5) 事務消耗品費	25,000	16,643	8,357
	(6) 会議費	25,000	32,111	-7,111
	(7) 会場運営費	300,000	416,912	-116,912
	(8) 事務委託費	5,229,000	5,229,000	0
	(9) 荷造運搬費	10,000	8,901	1,099
	(10) 支払報酬	60,000	31,500	28,500
	(11) 雑費	10,000	5,775	4,225
管理費合計		5,744,000	5,858,296	-114,296
(D) 支出合計		7,486,602	7,240,401	246,201
(E) 収支 (C-D)		0	-104,723	104,723

2012年10月9日

ビジネスプロセス革新協議会
会長 倉重 英樹 殿

監事 市川 勤 

監査報告書

私監事は、2011年10月1日から2012年9月30日までにおける会計及び業務について監査を行い、次のように報告します。

1. 監査の方法と概要

決算結果の監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表及び収支計算書について検討し、証憑等必要と思われる監査をした。

2. 監査意見

貸借対照表(財産目録を含む)並びに収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、定款に従って、財政状態及び収支状況を正しく表示していることを認める。

第3号議案

理事選任の件

新 理事候補者一覧(五十音順)

理事	相磯 秀夫	慶應義塾大学 名誉教授
理事	青木 秋徳	株式会社BT 代表取締役
理事	伊藤 孝	日本ヒューレット・パッカード株式会社 取締役 常務執行役員 管理統括
理事	岩佐 豊	有限会社ワイエスマネジメント 代表取締役社長
理事	岩崎 孝彦	NECソフト株式会社 サービス事業推進部 サービス事業企画エキスパート
理事	内田 士郎	プライスウォーターハウスクーパース株式会社 代表取締役会長
理事	遠藤 隆雄	日本オラクル株式会社 代表執行役社長 最高経営責任者
理事	小笹 芳央	株式会社リンクアンドモチベーション 代表取締役社長
理事	桐山 太一	株式会社アーク情報システム 取締役
理事	倉重 英樹	株式会社シグマクシス 代表取締役会長
理事	坂田 明	明豊ファシリティワークス株式会社 代表取締役社長 兼 会長
理事	椎木 茂	ココミ コンサルティング株式会社 代表取締役社長
理事	仙石 通泰	株式会社三技協 代表取締役社長
理事	竹内 弘之	一般社団法人中部産業連盟 副会長 事務局統括
理事	中島 洋	株式会社MM総研 代表取締役所長 全国ソフトウェア協同組合連合会 会長
理事	成田 恒一	株式会社シグマクシス 代表取締役社長
理事	松永 達也	日本アイ・ビー・エム株式会社 金融第三事業部 執行役員 【新任】
監事	市川 勤	株式会社じもとの neco 代表取締役社長

〈退任理事〉

理事	渡邊 邦昭	ウィンワークス株式会社 代表取締役社長
理事	速水 治夫	神奈川工科大学情報メディア学科 教授・学科長
理事	後藤 兼一	聖学院大学 政治経済学部教授

なお、理事任期は2013年9月末日まで。

第4号議案

本協議会の名称変更承認の件

本協議会の現行の名称を下記改定案の名称に変更することを提案する。

<現行>

和名： ビジネスプロセス革新協議会
英語名： BUSINESS PROCESS INNOVATION ASSOCIATION
略称： BPIA

<改定案>

和名： **ビジネスプラットフォーム革新協議会**
英語名： **BUSINESS PLATFORM INNOVATION ASSOCIATION**
略称： **BPIA**

<提案理由>

多くの企業はそのビジネスの領域が加速度的にグローバル化している。それは新たな国内外での競争やビジネスモデルの変革を意味する。例えば多様化する社員（人種、宗教、言語、価値観など）のビジネス目的の共有化、能力の向上、適材適所など業務効率の最大化と同時に個に適した働きがいのあるワークスタイルを実現する新たな人事制度が必要となる。更に爆発的に増加するデータ（メール、Facebook、TwitterなどのSNS、世界レベルでSCM、CRMや会計などの経営データ等）を瞬時に分析しビジネス課題やビジネスチャンスの発掘などに活用し、最適な経営の意思決定を迅速にできる仕組みが競争優位の源泉となる。ITと通信は予測を遥かに凌ぐ進化を遂げ、この高度な活用は経営にとって必要不可欠となる。これらは、それぞれの企業が経営戦略を実現する為の機能・基盤であり、これらをビジネスプラットフォームと定義できる。ビジネスプロセスはまさにビジネスプラットフォームの一つである。

ビジネスプロセス革新協議会は創立から13年が経ち、この環境変化への対応を協議会自身も求められる。今まで行ってきた様々な成果を踏まえ、これからの10年を見据えた活動をより広範囲に取り入れていかなければならない。この協議会の名称を「ビジネスプラットフォーム革新協議会」と改めることにより、その活動内容を適切に表すことになり社会からの理解と支持が得られよう。

今の研究会はそのまま継続し、今後の研究活動において新たなビジネスプラットフォームを意識し視野に入れて更なる成果を希望する。又この趣旨に沿った今後の新たな研究会の立ち上げを期待したい。

第5号議案

2013年度事業計画書承認の件

2013年度事業計画

I 事業計画概要

本年7月に「日本再生戦略」が閣議決定され、「名目3%、実質2%の経済成長」が目標として示されたものの、政権の不安定性にくわえ欧州を震源とする金融不安など不透明な要素が大きく、経済環境の好転は当分望めそうにない。しかし不安定な環境のなかでも、企業は確実に活力を取り戻し成長を実現してゆかねばならない。

各研究会とも「企業活力をとり戻すにはどうすればよいのか」をそれぞれの切り口から実践例を通して追求しようとしている。また、研究成果をどのように広報してゆくべきかに真剣に取り組もうとしている。<生き生きした会社の作り方研究会>は、昨年度の議論の成果をもとに経営実践事例を発掘すると同時に、研究会が対象とする中堅企業の経営層・スタッフを新しい会員として新たに取り込もうとしている。<THE 業務革新研究会>今後はこの成果をどう発信して広く共有してゆくか、さらに幅広く事例企業を取り上げ、日本企業のイノベーションのために何が必要かといったことを軸にして活動を進めて行く。<21世紀情報システム研究会>今年度の活動方向も昨年度の方向を辿って、新時代のシステム開発手法を発掘し検討してゆく。具体的には・アジャイル型開発手法、・プログラム開発手法、・シェルプログラミング手法、・要求を確実に作り込んでゆく方法論と開発ツールなどについて、開発者を招いて講演を聞き、その意味するところ、生産性、有効性などを検討・議論する。<WEB ビジネス研究会>は、「会員大手企業の若手社員がたくさん参加する」、「若い勢いのある会社がたくさん参加する」研究会を目指す。今期は特に「売る（マネタイズ）」にスポットをあてる。ソーシャル・スマホ・タブレット等に関する特別勉強会や、Web 広告出稿戦略等、実践に近い企画もとりあげる。<働き方革新（ワーク・モデル・イノベーション・リサーチ）研究会>は名称を<企業活性化研究会－日本企業の元気要因と働き方を探求する会－>に変更する。成果主義の導入やグローバル対応を進めた結果、業績低迷、組織肥大化、人事問題に苦しむ企業がある半面、年功序列、終身雇用など日本的な制度を守りながら業績を維持する企業もある。活力ある企業を分析することで、企業の元気要因と働き方を明らかにする。<面白工学研究会>は、従来の異業種交流型の研究会は一旦中断して、出前方式の面白工学研究会を開催する。個別企業ごとに、企業ニーズに合った面白手法の開発の支援をしようとしている。<目からウロコ研究会>から再び新たな研究会が生まれる。<EPUB マニュアル研究会>である。業務マニュアルの電子化を、分かり易さ、使い易さ、現行マニュアルからの移行方法の容易さなどのユーザー視点から議論し、成果を参加会員企業が自由に利用できることを狙っている。EPUB 関連ソフトのトップメーカーがメンバーとして参加する。

基本方針

- 1) B P I A 事業の恒常的見直しとイノベーション
- 2) 研究会活動成果の積極的発信/広報活動の推進
- 3) 関係諸団体・機関との協力推進
- 4) 会員交流の促進

II 年間事業予定

- | | |
|------------|---|
| 1. 協議会執行行事 | ①総会 1回/年
②理事会 2回/年
③常任理事会 随時 |
| 2. 企画委員会 | 随時 |
| 3. 研究会 | 8研究会
① 企業活性化研究会（旧：働き方改革研究会）
② THE 業務改革研究会
③ 目からウロコの新ビジネスモデル研究会
④ 面白工学研究会（第4期）
⑤ 21世紀型情報システム研究会
⑥ 生き生きした会社の作り方研究会
⑦ Web ビジネス研究会
⑧ EPUB マニュアル研究会 【新規】 |
| 4. セミナー事業 | 年2回 |
| 5. 経営サロン | 年1回（原則） |
| 6. 会員交流会 | 年1回（原則） |
| 7. 外部との活動 | 随時 |
| 8. オンライン活動 | 随時。メルマガ発行、会員エッセイ、企業紹介など |

III 研究会活動予定（別紙）

日本企業の元気要因と働き方を探求する

1. 企業活性化研究会

※旧：働き方改革研究会、研究会発足：2008年12月より

BPMを人事制度、組織経営など企業活動の全体から捉える

2. The 業務改革研究会

※研究会発足：2006年7月より

チャレンジ精神を忘れた日本人に気付きを与える

3. 目からウロコの新ビジネスモデル研究会

※研究会発足：2007年11月より

「生きがい、働きがい、やりがい」を高める

4. 面白工学研究会（第5期）

※研究会発足：2008年1月より

これからの日本企業に求められるモデル、組織や情報共有のあり方を探る

5. 21世紀型情報システムを考える-20世紀からの決別- 研究会

※研究会発足：2008年1月より

21世紀型の組織マネジメントを追求して経営実践の諸相を探求する

6. 生き活きた会社の作り方研究会

※研究会発足：2011年12月より

戦略に基づいたWebビジネスの再構築を考える

7. Webビジネス研究会

※研究会発足：2011年12月より

いつでも・どこでもマニュアルの実現を目指して

8. EPUB マニュアル研究会 【新規】

※研究会発足：2012年12月より

ネットワーク社会におけるワークスタイル、ライフスタイルを考察する

1. 企業活性化研究会 – 日本企業の元気要因と働き方を探求する会 –

(旧：働き方改革研究会)

特徴ある経営（たとえば、家族的組織運営、年功序列、終身雇用、自社技術重視、脱下請け等）で成功している企業の成功要因を中心に分析し、日本企業の活性化要因を追及することで、閉塞感のある日本を打破し活性化するための企業のあり方や働き方を検討する。

成果主義の導入やグローバル対応を進めてきた多くの企業が、業績低迷、組織肥大化、人事問題などで苦しんでいる。一方で、年功や終身雇用などの日本的な制度を守りながら業績を維持し、社員を大切にするとともに、その能力を活かしている企業もある。このような活力ある企業を分析することで、企業の元気要因と働き方を明らかにし、日本企業の再生に貢献したいと考えている。

具体的には、以下のいずれかの特徴をもつ企業を、調査分析&訪問の対象としてリストアップします。

- ① 終身雇用等の日本型経営で成果を出している、
- ② 特色ある評価制度や人材育成を実施している、
- ③ 地方の活性化に貢献している、
- ④ 高齢者や障害者などを含め雇用の拡大を目指している、
- ⑤ 心の健康に配慮した経営をしている、
- ⑥ 環境、脱下請け等でユニークな経営をしている等

ある程度、調査分析が進んだ段階で、それぞれの企業のユニーク性の中から、共通の特徴（経営の基本になるような根本的な考え方）を追求します。

■ナビゲータ

岡田正志 B&T コンサル・オフィス・オカダ 代表



<おかだ・まさし> 元NECソフト 生産革新アドバイザーエキスパート。名古屋大学大学院工学研究科修了。機器制御、ソフトウェア工学などに関する研究開発、通産省（現経産省）のプロジェクトなどに従事後、情報システム、企画などの部長職を歴任。その間、新オフィスの建設整備なども担当。現在は、生産性向上や品質向上に関与。ソフトウェア開発に関連する著書多数。他に、大学の非常勤講師など。

■実施スケジュール

2012年11月より月1回程度の会合を開く。

メンバーは事前登録制

BPMを人事制度、組織経営など企業活動の全体から捉える

2. The 業務改革研究会

厳しさを増す環境の中で、我が国の企業は様々な課題を抱えている。今こそ優先順位をつけて身の丈に合った行動を機敏に実行するときだ。元気な企業から、自社として何を学び、どのように実行するかが鍵である。「業務改革」に焦点を当て、市場に受け入れられている手法・情報技術から機器に至るまで、導入企業の立場から整理し、様々な事例からヒントを提供することを目的とする。さらに今年度からは既存の業務のあり方を改革する「業務改革」に加え、企業やそのビジネスのあり方までを対象とする「企業のイノベーション」にまで視野を広げて活動を行う。研究会では「改革」のための技法・手法、ハードウェアやソフトウェアから事例を取り上げ企業として「改革」のためのこれらの活用方法を検討する場を提供する。コンサル会社・ベンダー・メーカーは自社の持っているものを事例とともに大いに宣伝発信してほしい。ユーザ企業は自社の課題をぶつけて使い勝手の感触を得ていただきたい。勿論「改革」は、その方法論、ITなど技術的要素のみで可能になるものではない。企業の文化や組織、それらを支える働く仕組みや諸制度、ステークホルダーとの関係も無視できない。本研究会は、「改革」の技術的側面だけでなく、改革を成功に導いたと考えられる（独特な）働く仕組み、人事評価制度、社員が共有するビジョンやカルチャーなども研究スコープに入れて議論を行ってゆきたいと考えている。「The 業務革新」研究会に継続的に参画すれば、世の中の元気企業が何を活用しているかが分かり、活用を可能にする要件を体系的に理解できるだけでなく、何より視野が広まり、チャンネルができる。隔月で開くオープン形式の「The 業務革新セミナー」にて事例を企業に発表していただき、発表後のディスカッションにて理解を深め「改革」のための知恵を共有して行く。

■ナビゲータ

田岡賢輔 富士ソフト株式会社 ソリューション事業グループ
総合ソリューションユニット 新ソリューション技術ディビジョン部長



<たおか・けんすけ> 東京大学大学院工学系研究科修了。1981年三井造船入社。船舶の構造計算等に 従事。1991年～2000年テキサスインスツルメンツ及びスターリングソフトウェアの日本法人にて、技術部門、コンサルティング部門の責任者としてモデル ベース開発、コンポーネントベース開発の啓蒙普及活動に関わる。その後ベンチャー企業の立ち上げ、外資系ソフトウェア企業等を経て、2006年富士ソフト に参画。BPM/BAM/BI を活用した業務プロセス可視化のソリューション開発に豊富な経験を持つ。

池邊純一 サステナブル・イノベーションズ株式会社 代表取締役社長



<いけべ・じゅんいち> 1979年青山学院大学を卒業後、電子回路自動設計システムなどのシステム開発、自動プログラミングシステムの研究開発に従事。1997年より日本NCR株式会社にて情報の戦略的活用に関するコンサルティング方法論を開発し、大手企業に数多くのコンサルティング

を行った。2006年からは、日本HP株式会社においてソーシャルネットワーク上の様々な情報の戦略的活用に関するソリューションを開発し、学会発表、自著本の出版など啓発活動を行った。2009年にサステナブル・イノベーションズ株式会社を設立、持続可能な社会の発展を目指した啓発活動、コンサルテーションを行っている。経営情報学会会員、日本ナレッジ・マネジメント学会会員、オフィス学会会員、特定非営利活動法人科学工学技術委員会会員。著書「変化の兆しを捉えて行動する組織の作り方」(2007年)

■実施スケジュール

2ヶ月に一回程度で「業務革新」の事例研究セミナーを開催。ここでの事例研究とディスカッションを通して「業務革新」の成功要因を明確にして行く。これをまとめたものを何らかの形で経営層に向けて発信する予定。

チャレンジ精神を忘れた日本人に気付きを与える

3. 目からウロコの新ビジネスモデル研究会

会員企業の新規ビジネス創生の一助となることを目的に、講師を招いた講演とディスカッション。自由な通信基盤を前提として、既存ビジネスを積極的に見直し、劇的な変化を遂げている「成功事例」を中心に紹介している。研究会は、BPJA 会員アーク情報システム会議室（市ヶ谷）で、月1回の頻度で開催する。講演と討議を終えた後は、ワンコイン（500円）交流会を毎回実施し参加者同士の交流も深めている。進行は、研究会ナビゲータがつとめる。今年度も同様にジャンルを問わず、面白い試みを紹介していきたい。

■ナビゲータ

片貝孝夫 片貝システム研究所 代表



〈かたかい・たかお〉東京理科大学理学部物理学科卒業。重電機メーカーのコンピュータ導入準備室勤務からコンピュータにかかわり、その後、ソフト会社勤務を経て株式会社片貝システム研究所設立。成蹊大学経済学部講師。合併により株式会社シーエーシーオープンシステム事業部長。人材派遣のパソナソフト（現在アイティット）を経て、アクシスソフトに転職し、リッチクライアント Biz/Browser のエバンジェリストを務めるかたわら、個人として片貝システム研究所を主宰。昭和21年生れ。

ブログ：<http://blog.goo.ne.jp/katakait/>

岩佐 豊 有限会社ワイエスマネジメント 代表取締役社長



〈いわさ・ゆたか〉早稲田大学政治経済学部経済学科卒。昭和45年ダイヤモンド社入社後、一貫して経済畑を歩み、週刊ダイヤモンドの編集長を経てダイヤモンド社の社長・会長を歴任し、取材、交流により経済界トップとの深く広い人脈を持つ。現在は日本図書普及（株）監査役、（株）毎日コムネット取締役、ワイエスマネジメント代表取締役、ハートアンドブレインコンサルティング（株）取締役、協同組合ワイズネットワーク代表理事 他、多数の社外取締役を務める。普遍の社会人スキルからマクロ経済まで解りやすい話が定評で、各方面から講演講師に招かれている。

■実施スケジュール

最終週の火曜日 16:00 から、市ヶ谷アーク情報システム大会議室にて開催。全12回。

「生きがい、働きがい、やりがい」を高める

4. 面白工学研究会（第4期）

現代は「知恵」が価値（競争力）をもつ「知恵社会」である。「知恵」を出すには、能力（知識や技法）とやる気（意欲）を全開して「本気」で実践（体験）する必要がある。面白くなれば、能力もやる気も高まり「知恵」が出やすくなる。さらに、仕事の「やりがい」や会社の「働きがい」も高まり、知的生産性が向上する。人生や仕事をもっと面白くする「面白主義」を実践するには、面白くする方法論の開発と実践が必要である。「面白工学」とは、創造力開発やプロジェクトマネジメントなどの考え方と手法を活用して、人生も仕事も面白くするための工学である。「面白工学研究会」は「面白工学」をさらに実践的、汎用的なものにしていく研究会である。今期も、個人の視点だけでなく、組織（企業）の「面白さ」に注目して、個人と組織、さらに社会の発展に寄与する研究会とする。

■ ナビゲータ

淵野康一 東洋学園大学現代経営学部客員教授、
株式会社東レ経営研究所特別研究員



〈ふちの・こういち〉1950年大阪生まれ。1974年京都大学法学部卒。同年、東レ（株）に入社、主として人事・教育・経営企画畑を歩み、営業・生産現場を支援。2回のコーポレート・アイデンティティ（CI）開発プロジェクトに通算7年参画、工場勤務通算12年。2003年（株）東レ経営研究所取締役人材開発部門長として、東レグループ内外の人材育成支援事業を展開。2008年7月から、現職の大学教員に転身、日本の学校教育再生を目指す。ビジネスプロセス革新協議会「面白工学研究会」、企業研究会、日本能率協会の研究会などのコーディネーター、講師なども務める。著書に『部下の心を動かすリーダーシップ』『事例で学ぶヒューマンエラー対策講座（下）』（JTEX）等がある。ペンネームは「富士男♪」。ブログ「富士男♪だより」（<http://fujio-dayori.seesaa.net/>）

かせ沢孝之 株式会社データマネジメント
執行役員 営業本部ビジネスサービス営業部 部長



〈かせさわ・たかゆき〉1983年より、SE・PMに従事。多くのITプロジェクトを経験。プロジェクトの火消しを行うなかで、PMBOKのような、マネジメント標準の適用以外にメンバーの心理状態が、大きな要素を締めることに着目し、カウンセリングや心理学を応用し成果を得た。〈主な資格〉米国PMI認定 PMP、（社）日本産業カウンセラー協会認定 産業カウンセラー。〈面白趣味〉速読による読書（現在の年間読書数は150-200冊）。映画好き（日本でロードショー公開された、スターウォーズ エピソード4の約半数のフィルムの現像した。若かりし頃は年間500本も見ていた。3~4年ほど続けた）。フォークソングギター（簡単なコード

なら今でも多少が弾ける)。お料理（調理師歴5年、調理師免許を持つ。第2種衛生管理者、一応、自社の衛生管理者！）

■ 実施スケジュール

第5期は従来の異業種交流型の研究会は一旦中断して、出前方式の面白工学研究会を開催したい。来年1月から個別企業ごとに、その企業のニーズに合った面白手法の開発の支援をしたい。例) A社 3時間×3回（オリエンテーション、課題研究、実践研究発表）

これからの日本企業に求められるモデル、組織や情報共有のあり方を探る

5. 21世紀型情報システムを考える-20世紀からの決別-研究会

企業、そしてシステム責任者やシステムインテグレータを取り巻く環境は、クラウドやビッグデータなどをもち出すまでもなく、めまぐるしく変わっている。それに追従し、あるいは先取りするには何を作るか（what）、どう作るか（how）が問われる。21世紀型のシステムを具現化する what と how を問い直すことは、きわめて重要である。ただ、その両方を研究・議論するとどっちつかずに陥る恐れがある。そこで当面は how に焦点を当て、様々なシステム開発方法論、開発ツールの研究を進める方針である。具体的には Genexus や PEXA などである。その一方で、クラウド型のサービスや、垂直統合型のソリューションが多数登場している事実もある。こうした動きにも目配りをしつつ、多くの会員に役立つ議論をしていきたい。

■ ナビゲータ

田口 潤 株式会社インプレスビジネスメディア 取締役 編集長



<たぐち・じゅん> 1984年日経マグローヒル（現日経BP社）入社。日経コンピュータ編集部、日経AI（人工知能）ニューズレター編集長、日経情報ストラテジー副編集長、日経コンピュータ副編集長を経て、日経ITプロフェッショナル編集長、日経コンピュータ編集長などを歴任。情報技術を生かして、ユーザー企業のビジネスをいかに成功させるか、支援するかという視点から、企業情報システムのあり方や構築方法、IT業界のあるべき姿などを追いかけてきた。2008年3月末、日経BP社を退社。5月からインプレスR&Dに入社し、編集局長に就任。企業情報システム担当者に向けた新メディアの開発に取り組んでいる。2008年9月には、無料IT誌「IT Leaders」を創刊。



山下正廣 株式会社ヤマティー 代表取締役社長

■実施スケジュール（全6回予定）

- ◎第24回 2012年11月
- ◎第25回 2012年1月
- ◎第26回 2012年3月
- ◎第27回 2012年4月
- ◎第28回 2012年6月
- ◎第29回 2012年8月

21世紀型の組織マネジメントを追求して経営実践の諸相を探求する

6. 生き活きた会社の作り方研究会

企業はグローバル化する市場に向き合って、その多様性と激しい競争にスピーディに対応してゆかねばならない。多様化、個別化する顧客の課題をつかみ解決してゆくには、これまでの管理、集権、効率、マニュアルをキーワードとする工業社会型の働き方や組織や人事の仕組みでは対応できない。社員の多様な知識・経験を機動的に組み合わせることのできる組織の柔軟性、個人とチームをダイナミックに評価する仕組み、また働く人にとっては、モチベーション高く、働きがいがあり、ワーク・ライフ・バランスを通じて自己実現できる仕組みが今求められている。こうした新たな組織マネジメントを追求する事例を取り上げ、オフィスやワークスタイルへの経営者の関わり方やこれまでの経営実践を検証しながら、これからの日本企業のカタチを考える。

- * ターゲットにする層（中堅企業の経営層・スタッフ）の発掘と勧誘（商工会議所等へのアプローチ等）。倉重さんのご講演が必要。
- * プログラムの強化：実践事例、苦労話を追加し、企業改革に意欲ある経営層に理解しやすくする。ターゲット発掘も含めてシグマクシス社と相談したい。
- * 「倉重経営論」の経営の考え方、手法は他の企業にも応用可能なことを、シグマクシスの顧客の事例を紹介することによって学びたい。
- * 日経BP ウェブサイトの各回まとめを編集し直し、電子出版に持っていきたい。
- * 会員募集とプログラム強化を並行して進め、内容が固まった段階で活動を再開する。2013年春～秋を活動期間の目標としたい。

■参加者

経営層および企業改革部門管理職・担当者など

■ ナビゲータ



小田 昆古 プレイス・リサーチ・センタ代表

〈おだ・ひこ〉早稲田大学第一商学部卒業。日本ヒューレット・パッカート(株)で不動産部長、ワークプレイス・ソリューション部門長を、2001年まで12年間歴任。この間、オフィス改革に取り組み、通産大臣賞を含む日経ニューオフィス賞を5回受賞。現在はワークプレイス・リサーチ・センタ代表を務めるとともに、BPIAの「ライフスタイルとワークプレイス研究会」(2009年度実施)座長として活動。(社)日本ファシリティマネジメント推進協会(JFMA)の前ベンチマークデータセンター長。

■ スケジュール

※会員募集とプログラム強化を並行して進め、内容が固まった段階で活動を再開する。
2013年春～秋を活動期間の目標とする。

戦略に基づいた Web ビジネスの再構築を考える

7. Web ビジネス研究会

Web ビジネスといえば、「他社に先んじて、ホームページを作り、広告を出し、システムを導入する」こと自体が価値を持っていた時代があった。しかし今や先行者利益は色褪せ、いつの間にか Web の成長速度から遅れをとった企業、もしくは未だに Web でのビジネスモデルが見いだせていない企業もあるのではないか。

とはいえ、Web をベースにしてビジネスモデルを描き、ビジネスを展開しようとするとき、最適なモデルや手段を選択し、最適なマネジメントのできる人材はまだまだ Web 業界には十分に育っていない。Web 広告代理店や HP 制作会社、SI ベンダーなど、「お金を出せば補ってくれる」人はいる。また、「事例やノウハウを提供してくれる」Web コンサルタントという職業はあるが、その多くは Web 広告業界や IT 業界などの特定分野に偏った知識や経験しか持っておらず、そのアドバイスはクライアントが真に求めるものとなっていないのが現状だ。また、自社サービスの Web ビジネスの仕組みづくりを他社に任せ続けてきた結果、「手段が目的化、手段が戦略化」し、Web ビジネス強化の必要性を感じながらも、「どこから手を施せばいいかわからない」という状態もある。

Web を十分に有効活用するためには、一貫した Web 戦略に基づいて「何のためにこのホームページを作るのか?」、「期待される効果に対してこの広告費は適切か?」、「自社のビジネスモデルに対してこのシステムは適切か?」といった、ビジネス展開のための手段の検討が不可欠だ。

第二期は Web ビジネスの再構築の中でも、特に「売る (マネタイズ)」にスポットをあて、その本質に迫る。また、第二期からバージンドイヤモンド大場取締役を新ナビゲータに迎える。またゲスト講師の講演負担を少なくし、事例とそこに対してより研究会の議論が活性化するよ

う、ナビゲータ石田・大場、サブナビゲータ谷口で議論を活性化させたい。Web展開の加速をお考えの会員企業には、どんどんフットワークが軽く素養のありそうな若手社員を派遣していただきたい。確実に自社に持って帰っていただけるノウハウ・知恵があると思う。また、今話題のソーシャル・スマホ・タブレット等に関する特別勉強会や、Web広告出稿戦略等、かなり実践に近い企画も検討している。

■ ナビゲータ

石田麻琴 株式会社 EC マーケティング人財育成 代表取締役社長



〈いしだ・まこと〉早稲田大学第一文学部卒業後、インターネット通販ベンチャーに6年間勤務。ネットショップ店長として、仕入・マーケティング・システム構築・物流などを1人でこなし、1年間で売上7,000%アップ、年商3億円を実現。インターネット通販を中心としたマーケティング支援/マーケティング人財の育成を目的とした株式会社 EC マーケティング人財育成を設立。有力 EC/Web 企業を支援。船橋情報ビジネス専門学校特別講師など人材育成にも注力。その他、商工会議所での講演、新聞や Web での連載など。

大場雅人 株式会社バージンダイヤモンド 取締役



〈おおば まさと〉中央大学理工学部卒業後、日立系システム会社を経て、インターネット通販ベンチャーにの立ち上げに参画。その後、楽天ショップ・オブ・ザ・イヤーを受賞、ジュエリージャンル強豪店に育て上げる。現在は株式会社バージンダイヤモンド取締役として、営業、人材育成を手がける。自身のマネジメント経験を基にした講演、新聞連載なども精力的に行っている。

谷口擴朗 京セラコミュニケーションシステム株式会社(東京支社)

環境エネルギー事業統括本部 顧問



〈たにぐち・かくろう〉昭和20年生まれ。京都大学法学部卒。昭和43年住友銀行(現三井住友)入行。同駒川町支店長、梅田新道支店長を経て平成7年日本高速通信(株)に入社 同社取締役。KDD株式会社取締役大阪支店長。KDDI株式会社 理事東海支社長、平成15年同常務理事北海道総支社長。平成17年 KDDI テクノ取締役執行役員専務 西日本本部長、経営管理本部長を経て平成20年7月より現職。時代の変化に乗り遅れないよう勉強もしながら、銀行21年、通信会社23年の様々な苦勞・体験を生かし、今後は縁ある人々のお手伝いをしながら人のため、社会のため、地球のためになれるようにと考えて生きています。BPIA 会員コラム <http://www.b-p-i-a.com/column/110727.html>

■ 実施スケジュール 全5回シリーズ。隔月開催。

◎第1回 2012/12/6 (木) 16:00~18:00 (懇親会~19:00)

株式会社フィールドアンドマウンテン代表取締役山田淳氏

◎第2回 2013/1/24 (木) 16:00~18:00 (懇親会~19:00)

株式会社ネットショップ総研代表取締役長山衛氏

◎第3回 2013/3/14 (木) 16:00~18:00 (懇親会~19:00)

Web ビジネス研究会ナビゲータ大場雅人 (実践講座)

◎第4回 2013/5/16 (木) 16:00~18:00 (懇親会~19:00)

株式会社ルコリエ代表取締役 細野裕平氏

◎第5回 2013/7/18 (木) 16:00~18:00 (懇親会~19:00)

桃源郷株式会社取締役武田和也氏

いつでも・どこでもマニュアルの実現を目指して

8. EPUB マニュアル研究会

マニュアルとは「標準」を記述したものである。組織目的を達成するための作業のうちで、最も安定して、最も効率の良い行動手順を標準と言う。しかし作業の対象、取引手続き、使用技術など作業の諸条件が変化したり、より効率的な行動手順が発見された場合には即座に改訂される必要がある。それはビジネスプロセスの不断の革新に通ずるものだ。経済のグローバル化、ダイバーシティ化の時代の到来で、企業は地域、性別、人種、言語、ライフスタイルの違いを超えた経済活動を求められるだけでなく、技術革新によっても行動手順が変わるため、マニュアル改訂のスピードも上がっている。こうした変化にタイムリーに適応し、かつ皆に使ってもらえるマニュアルづくりを行うために、一定の規格のもとにマニュアルを電子化する動きがある。国際規格 (EPUB3) が制定され、さらにスマートフォン、タブレット端末などの普及により、「どこでもマニュアル」の可能性が見えてきた。しかし、電子化されたからといって、皆に使ってもらえるマニュアルになるとは限らない。「どのように使ってもらおうか」(ユーザビリティ) を工夫する必要がある。またそれ以前に、マニュアルを不断に見直すシステムが組織の中に必要にもなるし、マニュアルを使うひとに働きがいを感じてもらおう工夫も必要であろう。単に電子化技術規格だけでなく、マニュアルのユーザー企業の立場から、ユーザビリティを様々な角度から研究し、EPUB の普及につなぐため、「EPUB マニュアル研究会」の立ち上げを提案する。

参加メンバーとして、EPUB 関連ソフトの日本のトップメーカーであるアンテナハウス社、EPUB でビジネスをしようとしている会員企業、ユーザーとしてマニュアルの EPUB 化を考えている企業等で構成する。一年で成果を出すことを目的として活動する。なお成果物は EPUB で出版するほか、セミナーなどのイベントを行う。ノウハウは参加会員企業が自由に使えるものとする。

※EPUBとは；

米国の電子出版関連団体である IDPF（国際電子出版フォーラム）が開発した電子書籍の形式である。2007年9月に発表された。EPUBはXMLをベースとした規格であり、テキストが画面に収まるよう自動的に調整されるといった機能的特徴を持っている。また、オープンスタンダードな規格として公開されているため、多くのデバイスに対応し、互換性も得やすいというメリットがある。

■ ナビゲータ

木村 修三 EPUB コンサルタント



<きむら・しゅうぞう>日本ユニシス株式会社で汎用コンピュータのテクニカルサポート、パソコン開発部長、オープンシステムのシステム部長などを担当後、株式会社エフ・アイ・ティで取締役として帳票ソフト SVF の開発に従事、その後、ウイングアーク・テクノロジーズ株式会社（現ウイングアーク株式会社）で技術部門の責任者として帳票ソフト SVF や多次元高速集計ソフト Dr. Sum の営業支援・技術サポート・教育などを担当。現在はパソコンや Web のコンサルタントをしている。

■ 実施スケジュール（全7シリーズ）

定例会は2ヶ月に1回程度とし、会員企業の会議室にて開催。
必要に応じて適宜作業会議を設ける。

- ◎第1回テーマ：EPUB化を望むマニュアルとは～その効果と期待
- ◎第2回テーマ：既存のマニュアルを効率よくEPUB化するにはどうすべきか
- ◎第3回テーマ：新規のマニュアルをEPUB化を前提に作成するにはどうあるべきか
- ◎第4回テーマ：CAS-UBとWordの連携、マニュアルに適したCSSは何か
- ◎第5回テーマ：iPhone、iPad、Android系機器での効果的な活用方法は何か
- ◎第6回テーマ：EPUBマニュアル化した業務の運用方法はどのようになるか
- ◎第7回テーマ：イーラーニングの世界のデファクトスタンダードである Moodle と EPUB 連携のあるべき姿を探る。

第6号議案

2013年度収支予算書承認の件

2013年度予算案 (2012年10月1日～2013年9月30日) 単位：円

◆収入の部	項 目	予算額
会費収入	会費収入	6,204,999
	入会金	90,000
	その他収入(総額会費収入他)	400,000
受取利息・雑収入		500
(A) 当期収入合計		6,695,499
(B) 前期繰越収支差額		-104,723
(C) 収入合計(A+B)		6,590,776

◆支出の部		年間収支合計
1. 事業費	(1) 研究会・企画委員会	400,000
	(2) 研究会発表会	10,000
	(3) セミナー開催	40,000
	(4) 経営サロン	10,000
	(5) 研究報告書制作費	20,000
	(6) 共同宣伝・広報の実施	400,000
	(7) 会員交流の実施	100,000
	(8) 関連業界団体との交流	10,000
	(9) 雑費	10,000
	(10) 新規事業予備費	0
事業費合計		1,000,000
2. 管理費	(1) 印刷費	20,000
	(2) 旅費交通費	20,000
	(3) 通信費	10,000
	(4) 支払手数料	20,000
	(5) 事務消耗品費	20,000
	(6) 会議費	25,000
	(7) 会場運営費	200,000
	(8) 事務委託費	5,229,000
	(9) 荷造運搬費	10,000
	(10) 支払報酬	31,500
	(11) 雑費	5,276
管理費合計		5,590,776
(D) 支出合計		6,590,776
(E) 収支(C-D)		0

■ BPIA 2012年度 年間事業 実績【研究会は全56講座】

(2012/9/30 現在)

		頻度	対象	形式	2011年10月	2011年11月	2011年12月	2012年1月	2012年2月	2012年3月	2012年4月	2012年5月	2012年6月	2012年7月	2012年8月	2012年9月
1. 協議会執行行事	①総会	年1回	全会員			2日										
	②理事会	年2回	理事+研+役員		13日							31日				
	③常任理事会	随時	—													
2. 企画委員会		随時	委員+事務局長候補		8日						24日					
	①働き方改革	随時	固定カウ+見学会	LINEG / 5日、11日、27日			8日		23日	28日	11日	18日	20日	11日、29日		10日
3. 研究会	②IT企業革新研究会	隔月	固定カウ+逐次募集	セミナー/セミナーまじりのWS	17日	30日			27日	19日			14日	13日		28日
	③目からウロコの「新IT」系セミナー	月1回※ 最終回火曜日 16:00-	オンライン with ITMedia	セミナー	28日	20日	20日	31日	28日	27日	24日	29日	26日	31日	28日	28日
	④第4期 面白工学	全6回+特別編2回 ※原則第1木曜日 17:00-	固定カウ+逐次募集	講習+研究		11日		19日	2日	1日	9日 / 29日	10日	7日			
	⑤21世紀型情報システム	随時	固定カウ+逐次募集	講演+研究		29日				14日		30日				
	⑥【新編】活きた会社作り の研究会	12月から 月1回	固定カウ+逐次募集	講演+相談			13日	17日	21日	21日	17日	22日	18日	17日		11日
4. セミナー活動	⑦【新編】Webマーケティング研究 会	年5回	固定カウ+逐次募集	講演+研究		22日		24日		13日		19日		10日		
		年2回	オンライン逐次募集	講演会		2日										
5. 経営サロン		2回	オンライン逐次募集	理事+外部講師招待			19日(中島氏)									
		年2回	オンライン逐次募集	交流会		2日		18日(新井氏)								
6. 会員交流会		随時	—													
7. 会員・外部との活動																
9. オンライン	⑧メルマガ	月2回(15日と月未)			2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
	⑨会員ウェブサイト/会員紹介	随時				ネットセミナー					遠征委員					

■ BPIA 2013年度 年間事業 予定 【研究会は全56講座】

(2012/10/11 現在)

		頻度	対象	形式	2012年10月	2012年11月	2012年12月	2013年1月	2013年2月	2013年3月	2013年4月	2013年5月	2013年6月	2013年7月	2013年8月	2013年9月
1. 協議会執行行事		①総会	全役員													
		②理事会	理事+研+エグゼク													
		③常任理事会	—													
2. 企画委員会			委員+事務 局依頼													
3. 研究会		①働き方改革	随時	随時												
		②IT産業新改革研究会	隔月	隔月												
		③目からウロコの新ビジネスモデル	月1回※ 最終週火 曜日 16:00-	オンライン with ITMedia	30(火)	27(火)	18日(火)	28(火)	26(火)	26(火)	30(火)	28(火)	25(火)	30(火)	27(火)	24(火)
		④第5期面白工学	3回を2社 出前講座	オンライン 会員企業 随時												
		⑤21世紀型情報システム	随時	随時												
		⑥活き活きした会社作りの研究会	春～秋講 座	随時												
		⑦ Webでネオサイト研究会	年5回	随時												
		⑧【新規】EPOBでデジタル研 究会	年7回	随時												
4. セミナー活動																
5. 経営サロン																
		年1回	随時													
6. 会員交流会																
		年1回	随時													
7. 会員・外部との活動																
		随時	随時													
9. オンライン																
		月2回 (15日と 月末)	随時													
		の会員エッセイ/会員紹介	随時													